



特別  
ル 4  
3770  
3



門 凡 生  
3770  
卷 3

昭和二十六年  
二月十三日  
購本

京本重編巻三目錄

舊例

二丁め

遺意

十丁め

撰傳

十六丁め

疑似

廿七丁め

弄場

卅四丁め

妖怪

四十五丁め

盜鱈

四十八丁め

臺実

五十三丁め

京形二重織の事終

京形二重織の事終三

舊例

御衣

大表（大表）下（下）廣隆（廣隆）とハ（とハ）中（中）を業  
 所（所）ありて新（新）地（地）太子（太子）社（社）に  
 此（此）上（上）宮（宮）主（主）院（院）より太子（太子）御（御）衣（衣）此  
 彫（彫）像（像）ありて王（王）と（と）二代（二代）一（一）夜（夜）而（而）衣（衣）と  
 下（下）一（一）あり（あり）ハ（ハ）依（依）り（り）名（名）也（也）なる（なる）こ  
 是（是）旧（旧）例（例）なり又（又）ハ（ハ）寺（寺）の（の）二（二）老（老）二（二）老（老）  
 松（松）尾（尾）乃（乃）社（社）依（依）傳（傳）職（職）と動（動）じ（じ）料  
 あり毎（毎）月（月）八（八）月（月）朔（朔）日（日）衣（衣）乃（乃）尾（尾）に  
 相（相）撰（撰）ありて（ありて）場（場）二（二）老（老）二（二）老（老）乃（乃）後（後）  
 衣（衣）撰（撰）乃（乃）白（白）例（例）ト（ト）

神歌

梅（梅）尾（尾）高（高）山（山）寺（寺）ハ（ハ）入（入）天（天）台（台）  
 宗（宗）ありて此（此）敷（敷）山（山）宮（宮）御（御）衣（衣）乃（乃）  
 伊（伊）正（正）意（意）此（此）無（無）基（基）乃（乃）後（後）乃（乃）衣（衣）  
 上人（上人）再（再）真（真）と（と）合（合）堂（堂）に（に）歌（歌）乃（乃）御（御）







内々々々ぬれ東南ちづく此里  
しりも葵くぐりまらるあり

### 閑取

毎々祇園寺林津とん  
七百十四日乃并日新職取  
は寺六角堂に集りしりて海  
ここの町今園とまじりしりて  
乃本後と定む二三此後中とん  
ゆとふ乃紙符と京師西日乃  
ら下わたり入すつわ乃日新職  
お御とここの日例かわし

### 横取

中右月七日祇園寺祭共  
日降通高金金の森前に  
向て公方家の横取ありお神  
御人乃ちりて新職示す森に紙言  
園と今横取ありはれりしりて  
も日例とらて毎々祇園寺  
報文未はふし列所一此常と  
いよのしりものなり

### 送誠

信者永年寺乃元和尚  
本園に入ふし時京本  
うと道正も申はてしついで入ぬ物  
の後乃久の送誠と曹洞宗此後  
お世りしひ新味号とのぞも新園  
しりてのりり京都に入る白かりし  
どと乃の者よありしを事と通  
進と入しとまじり日例とらりて  
曹洞宗此後他園よりと世りて  
かり系に入る日必道正為に事  
なり道正菴しりて執事とん

### 院主

宗はて青蓮院の  
乃院主なり凡は院の位とる  
修徳日例とて日神家此猶子  
たりりまじり列ぬあ大の神  
此社修とゆあるぬあ大の神  
不動院と号せし





らりあり

### 奇附

毎の五月十五日今迄  
神事なり京味の西向  
の資料とて是旧例なり

### 修造

稲荷社社を深院に  
しり尚社修造なり  
人よりして命をひたし社  
破損とて是は聖を賜給ふ  
とて是て造修此資料とて  
ものなり毎の五月九日  
本社家とては院あり  
旧例あり社修補とて  
御供 三條本家西人  
十四日三社の神輿は  
いかに檀とては幣  
て神輿と檀とに勸進

### 供御酒

此氏家より供物とて  
上京柳系に神の  
地にて造修の  
神美社とて  
本社林あり毎月  
乃三首日祭る  
供とて  
つて今

### 淨忌

多相院天仁  
五日祭り  
忌と修し

### 懐紙

毎の五月四日  
院より裏白  
凡そ此懐紙  
執事人あり  
て事ある

かわりけら紙と墨又介に紙取  
とそとくふ牧ととこいふとて  
裏白のり三尋と云

**筆刀**

二條大西の相院の形  
令道が小刀多子 禁  
裏院中にたぐく親三九服  
らゆるとの筆刀又旧例とて  
令乃是と御をさく親三九重  
形此の時と髪ながくうらま  
え服の口筆刀とてしてさ  
髪色よ墨とて墨と深  
云あふれと殺のまよとて深  
るつ美つらつらなり

**深水**

例の十月十日敷山に法  
花八辨れ木わらじとて  
山内北流下下敷山とてわらじ  
洗れ井水とてわらじ深水の淵  
とては日社勢栄新とてわらじ

**執奏**

七条ふれ令多々をいふ  
深三定物此定地にてま  
孫代に家に住居して佛唄と号  
とて後世に不令先とてわらじ  
外流の儀をさくわらじわらじ  
出せとて内河生令先寺に号  
大佛唄とて京とてこの三勸儀と号  
とて連して大系とて執奏して京  
内とてさくわらじとて京とて地  
とてさくわらじとて高の儀とて  
とて地とて京に号わらじのわらじ  
とてとて旧例とて

**護摩**

白河村の東中山とて護摩  
地系とてわらじとて  
故道十八所わらじとて護摩  
一休とて二夜合号の巻いとて  
わらじとて七十七の巻いとて



一四削よりして毒の十二月の  
日計断今と院内よりひき酒食  
と食一より進世の門より境内一  
字も跡くど酒食と食下の定

遺意

大中寺又教系傳勢人此建之と  
多不りわ中なる長州の天候で  
又別と親自を此係と安雲と  
寺院天を宗にして青蓮院の  
同寺勢より中世宗延法師  
いふに後居の時山石に大蛇わ  
て僧還の法人をいふと  
延漢摩子と傳いふに小石に  
大蛇事の時白比沙の天の蛇と  
くもいふと大蛇と

鞍の竹切

大蛇と今依よ大蛇の頭と云  
毎月の六月廿日の竹切大蛇と  
たぐいひきして死とて後傳勢  
人より月人ひして今又五十と  
て大蛇とまづて山に捨あふ  
て今と今依よ大蛇の頭と云  
毎月の六月廿日の竹切大蛇と  
くもいふと大蛇と

梅の白砂

解と此神なり人王五十二代  
天と此神なり梅の清な此加  
智子より梅の檀林の神これ  
平のおさかりて終たの通し  
い栗わと春観又いひかると  
これいひ太子より梅さね事と天  
白とく観とたまひ高社内解  
の神いひわあ時と感憂わ  
て神懐妊あり高社の白砂と

市野乃下に安まらばして太子と  
誕生地地梅のまは西よりあり  
者今所拜而云天宮社ありて  
あひま祥も中祀各情を  
酒解社社に比一嘉名子と酒解  
子の社社とあとき又瓊々株  
死して梅氏の祖廟とあり今  
の梅のまは西より世人能拜の  
明に或社乃何社とを請て  
練二舞もしは遠意なり  
鎮園藤氏 社中一祀撰社也  
しう素交鳥其  
南海小おむしきるふ時日くれ宿  
巨財が家に備り巨且慣負  
こしてその二所若と切せり  
はありて完藤氏うかに宿

ふ藤氏家より一祀撰社也  
仁義のやうくそい粟の飯と  
一あふしそいそいふい  
そ後八通の又藤氏家にもあり  
そ恩と報しありんと思ふ今  
天下大いに疫癘をて女弟の  
論と造て一各各掛べり時  
ハそ災とそあふるべしと  
クも藤氏もこれ教へり世時疫  
とのが由二伝ふ之見しわ後時  
疫流ひ此時第此論とけりて  
謂け家藤氏り苗裔にて  
藤氏將才 依りて二疫癘と  
すぬれゆるとぞ今祇園守  
淑の坊に藤氏の子孫紙  
簡もしは遠意なり

北野九条系

毎々六月九日  
天神の社ふ素病

南門の弁(生)中社(ま)ま(で)り  
事九夜と見と九夜  
ありと云わたりは性(あ)村(ま)會  
乃天曆元年六月九日(あ)ま(ま)く  
しめて選(え)所(し)今九夜(ま)六月  
九月二限(ま)は(ま)意(ま)なり

### 貴船神輿

旧記云人五百(ま)我  
後(あ)院(ま)院(ま)に  
京(ま)子(ま)噴(ま)達(ま)と(ま)り(ま)死(ま)る  
り(ま)か(ま)ん(ま)あ(ま)は(ま)船(ま)の神(ま)の  
二(ま)年(ま)九月(ま)九日(ま)疫(ま)癘(ま)と(ま)り(ま)り  
乃(ま)あ(ま)今(ま)運(ま)送(ま)つ(ま)り(ま)わ(ま)今  
室(ま)九(ま)日(ま)上(ま)京(ま)の(ま)幼(ま)児(ま)ら(ま)ひ(ま)ま  
神(ま)輿(ま)と(ま)か(ま)き(ま)貴(ま)布(ま)祢(ま)の(ま)足  
校(ま)小(ま)輿(ま)と(ま)海(ま)中(ま)と(ま)荷(ま)ひ  
乃(ま)今(ま)も(ま)は(ま)運(ま)送(ま)を(ま)か(ま)り

### 壬生餅團

毎(ま)月(ま)壬(ま)生(ま)寺(ま)に  
餅(ま)團(ま)と(ま)り(ま)り(ま)り  
乃(ま)地(ま)の(ま)芥(ま)に(ま)供(ま)し(ま)る(ま)り(ま)後  
正(ま)此(ま)法(ま)事(ま)あ(ま)り(ま)京(ま)師(ま)歩(ま)勝(ま)乃  
男(ま)女(ま)糸(ま)消(ま)し(ま)茶(ま)と(ま)り(ま)餅(ま)と  
伐(ま)し(ま)餅(ま)と(ま)桶(ま)して(ま)勝(ま)の(ま)餅(ま)と  
け(ま)餅(ま)と(ま)食(ま)と(ま)り(ま)八(ま)法(ま)事(ま)勝  
柳(ま)あ(ま)り(ま)是(ま)勝(ま)軍(ま)地(ま)乃(ま)心(ま)と  
乃(ま)此(ま)微(ま)こと(ま)なり

### 宅宿伏

旧記云宅宿山(ま)真(ま)流  
所(ま)謂(ま)太(ま)席(ま)房(ま)小  
して神(ま)代(ま)の(ま)ひ(ま)斬(ま)遇(ま)突(ま)智  
此(ま)神(ま)と(ま)あ(ま)あ(ま)ら(ま)り(ま)乃(ま)り(ま)此  
神(ま)火(ま)り(ま)焼(ま)と(ま)り(ま)夢(ま)し(ま)あ(ま)り(ま)り(ま)り  
火(ま)難(ま)と(ま)り(ま)乃(ま)此(ま)誓(ま)あ(ま)り(ま)乃(ま)山  
乃(ま)此(ま)礼(ま)し(ま)は(ま)ま(ま)也

### 八幡放生

毎(ま)月(ま)八月(ま)十五日(ま)八(ま)幡  
山(ま)此(ま)蘇(ま)り(ま)て(ま)放(ま)生(ま)の



の神事には家申野と帯しる  
より供物をもちて并に祭余し  
皆還ると云ふは是れいみじくも早良歌  
五勅と云ふはあつたてと伝代と  
そのの遠くを足はれしひさし者  
あの稱号あり九神社祭礼乃  
供物に甲冑と云ふは是れもまゝ  
社はまろりありと始り云

毛名酒宴

二月廿二日此門前大神會  
夫に集り酒宴となりて後中  
堂半王那持は場よりして左殿  
寺標貝と吹く終り云  
はゆへいけ酒宴と依り天狗  
酒盛と云ふは天慶外道の法  
法は標碑と云ふは此殿より

千代法會

日光三月晦日  
中三天下大きに縁死と云ふ  
にて浦瀧念佛と執りて  
坊長は法花は會と終り云  
寺に一条は繩綱と云ふは  
とて按ふ今子中は橋より  
壬生池邊院三月の念佛は會  
八鎮花法會の遠くより  
説く毎月三月十日今更安永  
花は神子と鎮花法會は微  
怪の塞乃 傳云 近東院  
多板母出で押出と終 禁裏  
佛殿より相ふと伝云  
かたがす押出あり佛の  
と云ふりて射す云今押出



卯と丸の西乃とふまに  
流なき川六林裏神の  
乃西乃ありはなほ怪多  
道とありはなほ怪多

**地を旅す** 鎮守ありはなほ  
不わ山通五余此あり今に

不わ山通五余此あり今に  
不わ山通五余此あり今に  
不わ山通五余此あり今に  
不わ山通五余此あり今に

**七野社** あり 文徳天皇  
中深な此の所ありはなほ

中深な此の所ありはなほ  
中深な此の所ありはなほ  
中深な此の所ありはなほ  
中深な此の所ありはなほ

年中 冷泉院 不  
社春日大の神乃外に  
懐聖天皇松乃尾平神  
社初清と依りて社と稱  
字ぬれ天皇の御宇と  
ふいりあ社と稱は是身  
て白粉にて大和三五  
と祭に祭るは初め  
先より法人の所ありは  
社ありはなほ

**稻荷の社** あり 東寺  
いなり神現出するはなほ

いなり神現出するはなほ  
いなり神現出するはなほ  
いなり神現出するはなほ  
いなり神現出するはなほ

講傳

女院像

寂光院大原内系  
村ありありなる地

安徳帝とて脱破し遠くたまたま  
不祥の程女院を浄しあふ内  
有聖徳の像にありあり女院  
客色乃ち蘇蘇八世のありあり  
知る不祥の程ありあり浄徳乃  
後世の人をいひていひて  
尼後惟悴麻面此浄容とら  
くし然ありありありあり  
心とありありありありあり  
内侍老衰の像とありあり行院  
美蘇入浄容と遠くありあり

祇園社

信云昭宣公其基

は社とて遠くありありありあり  
此よりありありありありあり  
かわけありありありありあり  
さといありありありありあり  
先とありありありありあり  
とありありありありありあり  
表裏と相日一世に昭宣公の  
美蘇とて神社とありありあり  
ありありありありあり

三木院

大徳寺ありありありあり

在りありありありありあり  
観土の二月十六日院とて遍照  
ありありありありありあり

淳和天皇帝並痛此山  
して三後天皇帝此山  
るふは下りて提達と  
たまをたて碗礪天皇  
院大徳寺に属と今荒廢  
つづかに一寺堂とのこせ  
は村とありては作と云

**特窟塔**

場ありまやかりては  
と樹むはな塔と建む  
院乃はより世人あや  
院の大長初此山年  
と行はあやまりに  
こと事蹟此人と小野  
集道と忘るるは  
**苦集滅** 本山釈尊  
祇園林の南に建む

の竹林の東と傳て六  
東よりあるありて  
尚三年寺ありて本  
て空に別業に通ひ  
まはせしめてが  
苦集滅道のひびき  
は細るごとくと  
あままりてくら

**源融塔**

かふる石塔三  
源融天皇此山塔  
林白く右の塔と  
鞍云の塔と世人  
ハ華曲木に  
まのくあふ  
は恒寂は此山塔



諸社命神 此言此の事とてくさすものあり  
山科の御所の天村  
あり 山科の御所の内

才司れまかりわゆる云々  
延喜式才司れまかりわゆるは社司の  
云々と稱するにやめて世に此の  
社と云先太子かろあやまると  
この事一法眼と云根を作る法  
ふ附ハ天れ見登根の令太子  
れ令らしてたせん投置の亦  
とてくさすものなり

造真像 此西王母像也  
後亦て南都招提寺に  
同基何人かろふと云々  
る地系其をわ像と造す  
ホ像あり世に傳ふあやま  
て祀り神と云

羅城門 世にあやまればなる南  
門或は西の方の門とら  
しやうつと云羅城門の  
城廟の南門なりと云  
ありる云々今地の下  
ありにありたりや  
玉下此昆沙門天像ハ東  
寺觀音堂の内

福天の神社 西にあり  
系板今九条東宅地  
九条及御殿造  
社と云  
うろしやうつと云  
今の中園寺の内  
白狐守加賀神  
の神と云

白狐守加賀神  
の神と云  
御殿造  
社と云  
うろしやうつと云  
今の中園寺の内  
白狐守加賀神  
の神と云

徳意寺

云云大木成あまりか

いふ山向門勝軍山此西  
山にありは玉葉場にて

寺あり今滅苦き、絶て葬場の  
こ跡まるとありの若くは苦きとこま  
僅りて同変と号すりつて下り  
くドと倭流おらうきにふりてあ  
りけあやまりに依て行西七生  
景清うの葬れあふ今も年月と  
変りし高きふと云、櫻傳れし  
あはれづりまりの也

蓮生分

西山栗堂支の北に  
蓮生寺あり是れ分

夫れ入道之入信房生蓮生分  
之するふりて海太宗あり其  
信分ありふ、蓮生分二号す  
是れ一として徳谷入道蓮生分  
と二號しは是れ也

鶴社

東三條より居小池此西小  
あり高長池の下栗田

あり栗田にありは也他云  
近坊院の清字怪をの和母よ  
け森しりて、押出池と号す  
禁裏の上にて、池けふと今長  
るありやまり、榎木本の社と云

親王社

大和入路北南輪荷此社  
の南にあり是れ早良親王

と号するありは又今此親王に  
あり高社乃撰社ありては、森の  
り地、此社あり今稻荷の社  
此る場の中、天王塚とあり  
け地今人親王と葬りあり世に  
あまのく、一は此れ白本記三十  
卷八は今人親王れ作りて續  
日本記世と云、廢帝天平室  
字三、六月今人親王と号す



定流此處下れる云々此自曾橋の  
後徳乃建立たり橋此後を此  
村に子々たるにいらして後氏にて  
橋とて此の村に傳へあやむ  
那頃乃と市宗言此建立と云  
りりとは此西南に石塔あり  
是則後徳乃塔なり他云々  
一那頃此と市宗言此塔  
地とてけり高寺に寄附し  
あやると是にいらしてあやむり傳へ  
ものなり

元應寺

いり長湊村の西にあり  
今元應寺絶てまじり  
田畑にまじり此村民と云々  
義と云元應と云元應と云傳へ  
一に依りてあやむり傳へ

夜伏社

社屋を西樹の西にあり  
傳へは社屋のり時を  
特夜此夜病と云ぬれり  
是よりして夜伏社と号す  
夜鬼夜伏此社なり病と云  
世傳りては社屋と云伏此  
一して淨土の貴と云る也  
とは謬りして山伏此社  
なり此具と給へて社屋  
無るを云ははまて有る夜伏  
と云伏の傳語おちりきり  
らりてあやむり傳へ

石上社

三乘社南境此西にあり  
大和此國布るる神にあり  
て素盞盞鳥を祀ふ此十握此  
と云り神なり此と云  
勢清と云るついでの時と云  
さごうかす寸由世るの上を撰



て若神とて名てゆ人の乳汁  
と名どくろの誓ありは山今  
細見と名は月とく女孫と名  
社と名索して乳汁涌出  
と名て繪馬に侍て神本と掛  
向案どくろ石上ハ前にい  
ふ十握乳細りわゆる時ハ  
此よのそと日二替かちと  
乃國歎の川上とく時脚履  
乳ハ磨り乳童女桐田畑と支  
ぬる方にきて湧くわし  
乃ゆととくひりやまぬれ者  
のいり我ハ人ハ女と持て人ハ  
毎のハ波の蛇り為るのまも今  
は女とく又香とくもに時  
いりは女よかかむわりのみ  
あはまこあひいり大蛇と名  
まはまこあひいり大蛇と名

あはまこあひいり大蛇と名  
乳根えハ乳汁わり女も  
懐れ多とくわあしあちり  
づちれ乳乃字とくりて乳汁  
と名どくろ此並いまもり  
又西原和天まれ像不石上あり  
社名石と名て神守り  
も又乳汁と通とく名の盟あり  
名濂傳乃甚いさりの又乳  
石上の神ハ名名感れ余か  
りてゆる時ハ大玉れ命れ  
**神料人子** 上三貫北南山川の  
橋の東ハ中世を傳友の位也ハ  
あり近傍植家云れ息女ゆわ  
アて嫁一夫まはてまはる  
若云はまはれ地子淺とけ息女  
厨料ハ七石まはる後京師

家の地子とゆふさうはれは又十  
石れ家伝とて地子後代今に  
おつとて志しわけ不出料人の地子  
と云ふ事とあやまりて所其の  
は子と云

**札有松**

四條の西にあり松あり  
云ふ事一(原)多経の(新)松  
は心ありな上正治人の時力を  
は松よりけり今に松ありけ  
此松云ふ事下り多経松あり  
松はけりあずけ地は細川松  
有我免の場として後人松極  
てありしことそのの地有松  
建仁寺永保寺の檀越にて  
云ふ事此甲申曾旗竿木今に  
は院ありあり

**多向持國**

日蓮宗頂妙寺の六高  
念二条の心あり近世二

条東にあり松ありは此松あり  
たあり多向持國の松あり  
佛工運をより他を不并り男力女  
疾弱年服とてのりは其松あり  
たあり松あり此時たきあり  
有松とて遠りて掛る松あり  
は右れ松ありと世人あやまり  
て二五松ありと号して

**勝軍地所**

上栗田白川村の東小山  
平安城の都よりなり藤原山  
の上には八丈松ありと云ふ  
此松は藤原の松なりと云ふ  
松ありと云勝軍の松と云ふ  
松ありと世人号りては松あり  
松ありと号する軍場の松あり

**火雷神**

八所の市靈八所神宮の  
日蓮宗道天守衛の神

後天の橋、逸書文を以て因  
九なる系に廣嗣火雷神カ  
世に火雷神と敬神れ其  
種より先大寺あり其  
橋より先大寺あり其

深谷地蔵 四系名徳令  
有深谷の石像依佛之

裸形の地蔵カ今深谷の南  
深谷と信じて其地蔵カ  
深谷と信じて其地蔵カ  
深谷と信じて其地蔵カ

細谷 通稱カ今深谷の南  
今細谷と云ふは其地蔵カ

今細谷と云ふは其地蔵カ  
今細谷と云ふは其地蔵カ  
今細谷と云ふは其地蔵カ

橋 東寺の南梅ヶ水谷の南山  
東寺の南梅ヶ水谷の南山

東寺の南梅ヶ水谷の南山  
東寺の南梅ヶ水谷の南山  
東寺の南梅ヶ水谷の南山

木辻村 妙心寺南門の東にあり  
妙心寺南門の東にあり

して今に茅宅の辺ありて人未  
社とありてありて橋次と打中  
一因に井ありて又今齊橋次  
此井ありて又経東師背  
此井用は井かありて皆と  
あやまり其甚しき也

北御門

六所最密寺此西にあり  
不の去人あやまりて  
禁闕此中の御つけにありて又  
一説に京師監灌ありて此の  
茅宅此の門にありあり依  
山御門と稱する地と案らば  
院ありてむら門世にあり也今  
此は最密寺の北門の方向に  
久しきを北門と稱するは後より  
べし

疑似

雄風

雄山神備るれ什和  
此大原を金かふあり  
とて山水と教へて六曲の雄風  
ありて一雙の抱ありて  
報恩院ありて此院ありて  
康平房此寺と云弘法と康平房  
傳語も同一にありて康平と  
あやまりて弘法此寺と稱する  
べし

最勝川原

三條此四封候のかけにて  
此中良熟の火葬場  
傳云いありて此勝寺は地よりありと  
又一説に三條川原と稱するもの此葬  
場ありて下りて倫有并三河新書  
下知は未ありて職事 靴下云々

為平親王

敬禮寺此宮後高条方  
場合き此院あり  
此寺歌也い又地をあり世に

係方の地を以て号すは地ありて  
 久家なる平親王此宅地より宅を  
 昇附してとらむる地ありて  
 今も寺に縁起より平親王具  
 平親王とて流し是なりと云ふ  
**支荒神社** 唱法村福王の社内  
 あり傳ふに三月月習  
 丹波の國に氷室とて氷と  
 故より道中よりとて時氷  
 くのは流しとて川とて流し  
 かわりて死とて後復た其  
 所々妖怪とて号すありて社  
 と立てて号すと云ふとて支荒神と  
 号すありて又一説は支荒神といふ  
 とて実の麻利とて天の御  
 かりとてありて流しとて  
 号すと云ふ

**醒井石泉**

六條河原依國寺道の  
 西にありて水を以て  
 ありて茶人等とて遊  
 珠光は此に在りて井  
 此有る奇縁ありて  
 乃古洞を以て作りて  
 付心之今も有りて  
 先月井とありて

**時雨亭**

一説は平親王の  
 此は南麩ありて佛  
 潭の角基ありて  
 大寺ありて  
 又別ありて又云  
 室家編の藩ありて  
 此は子ありて  
 ありて室家編の藩  
 相國寺中一塔改普

定家此塔あり傳云々其の亭  
 も又云々一は地云々のは院寺  
 と云々定家此宅地ありては院寺  
 附云々の文書院中にあり云々  
 時ハは云々定家此宅地ありて塔  
 ハ則家廟なり人々又云々家廟  
 此藤常寂光寺の中に定家此  
 の社并ニ歌傳の社ありて何由  
 此亭此院と云いづる云々  
 山科竹ノ鼻村にあり云々  
 為空殿  
 此能なりと総ノ國生云々  
 の隨流上人と再興あり云々  
 一説ニ麻子此補号云々  
 一説ニ陵村の陵此家ニ多麻氏  
 あり云々人建云々  
 一説ニ栗田は銀工多麻氏  
 建云々

**目蓮大像**

京極今出川の北にあり  
 芥生此里の中浦純の如きあり付  
 人あり云々を極て云々のは像  
 と云々の唐云々の浦純は像の  
 崇して目蓮宗にたり云々後け  
 ちに安曇一侍り也一説云々像自  
 雲上人の像あり云々  
 真大師の像あり云々

**月栴院**

伏見東後栴の北にあり  
 水に月の影映りて山と云々の  
 一月に云々のを云々の四月と  
 云々一説ニ指月なり云々の月乃  
 河あり云々指月云々のあり云々  
 南禪寺の像あり云々  
 云々て云々付あり云々思云々信法

乃國交功の郡山田ぬり月芳  
時八田どに月あるがこころいひ今  
田月と号す又廣澤の池西より  
うるとき八月乳かきすまふに  
あわり八田見はあつとす

大群神社

今他大酒持又院縁起

云大酒大内神八奉の始り帝祖林  
ありと 仲良天皇八の巧王奉  
知れとさけ神と將まると又  
桂宮院まの云嶽は八大列祭  
ありていと見石とまのふあり  
奉此始り石二載入事あり  
もの二流より削れを大連の社  
たわと又云奉乃の勝と名  
ふかりと桂又院を徳太子乃  
別えかりと自遠立し

今にありの勝は太子の遊所なり  
は時いひ候とるべきもの  
乃國坂越村大酒の社あり  
を大連と名ありあり候時  
大酒といふをこれ社とす又  
まといふあり

兼好所住

高山林神院

神道護摩と修せりあり  
法味背けあり候と又二流  
向不神慰院今海家の傳  
まといふあり兼好法師位  
なりといふあり

安院舊地

雲林院村ありと云常盤の古  
地ありと云

美奈大東南に於院の事あり  
不買為此於院ありてあり  
といふ事なり  
延喜式云ん 天皇即位の時  
天皇と大神交へて  
玉皇の嫡子なり  
ト定まるとあり親王あり  
世次よりわたり  
乃とむと 漢帝と平城帝位  
とありて  
有知子とあり  
院えええの  
事いふ  
俱生神 傳云小野宮に於て  
此神無き  
の像あり

俱生神

小神無き  
兼此  
世に地系  
像も  
日向大神  
神  
潮井跡  
塩とや  
と及海  
夫流

日向神

潮井跡



え瀬井ありわつしと

親信の像

新志名芝のなか堂小  
法然上人の像の傍に

是親信上人自作の像云々傳  
信と云ふもさ中なるなりと

又親信上人の像よりわつすと云

如意寺

いふ東山堂と云ふ  
昔保胤初運の地なり

古徳三は地は率と身にも  
て寺と云ふとも天をよめ傳信

と云ふ如意寺の三井と云ふ後山

一休如意寺は早うあり

言旨書

本山智恩院の北南  
あり八幡の

不あり慈願和尚あり

後なり又後凌の院云々叙

川まきつりありあり慈願の

衆ありてと云ふといふと

阿古是池

清水尾院は中園にあり  
何よりわつて寺あり

と云ふ寺一統の是と云ふの宅地

此池なり又云ふ東山院

の池水なり

親音の像

四條大和の仲保あり  
地ある喜蔭の殿に

親音の像あり相傳へ春日の神

作なりと云ふ東山堂なる

本堂と云ふ又過分れ親なる

いふ一雲を居るなりと過分と

云依りて稱と云ふ又一説

西堂なる乃ち三掛橋寺あり

是寺ハかほり此橋なり

と云ふ此寺なりは親なるハ桂橋

此寺なりと云ふと云ふ

木津佛

久修恩院八幡山北東

基の作りにて後一木津佛と云  
は中その此木津佛別り出た基  
是と云りて歌るは像と云り  
じ木と云く係音相違一は木  
木津と云はと云りて又説は  
おまのひに鉢と持てるの歌  
ありを正し其体相なり依は  
心乃佛と稱するも今津宗  
の修住持と

子拾遺場

用記云平此のありひそ

一は天納言源資方歸此れと云  
通して一男子と云りて又  
流と云るはと云りて又  
乱と云り致金西海よむ  
と云資方乃の娘は

於此の地は人乞と云りて  
一傳と云りて又云法  
笑茂の社と云りて又  
松の事にて云りて又  
子於此の場ハは中今  
藤木の事と云りて又

公任宅地

小あり是係漢明詠集

此作者四条此矣納言公任  
住と云るはと云りて又  
よ為隆と云人ありて  
条此大納言と云西乃  
室ハは人の住と云りて  
乃宅と云るはと云りて  
此人ありて佛法と云り

弥陀佛

院の事ありて又

是永昌光の作なり  
院の事ありて又

極六条此道場の内は梅と真方  
遍此本もいして浄土宗がわち  
多羅陀ん八東山雲居寺にあり  
發心者より蓮坊と云ふ人け徳と心  
結てちと建安寺と云ふ一院すけ  
むき只梅尾高の山寺のどこの堂  
より有しといふ建くまをまふす

### 退分

山神宮此の東京道徳伏  
見道場のあまはなるはあり丸  
たを又相まうるものちまこおまけ  
と号し一にありあわ牛馬とあま方へ  
退分ふれあわたり又一院すけあり  
りく真分がわの佛を嘉禎年中  
佛土安の添と云ふあわ時不字あり  
佛をまうとて一院すけあり佛の像と  
造立せし人ありと云ふも来て佛成  
佛れ目と体相と云ふこと安の添  
の心よりわたりひは佛のまをまふ

とわし佛とけふまをまふと云ふ  
佛も又まをまふと云ふことあり一  
たちあり三神とありあま方と  
たがせ依り三々大まに依りあま  
此佛と體と負ひありは又一院すけ  
と負ひありてたがひと東西にあり  
くはけに負ふことありと云ふ  
はまをまふと云ふ

### 大塔屋敷

吉田神子屋敷北の橋屋敷  
真如堂は西南にあり佛  
云始まらぬ此の寶塔のありて  
かたりと云ふもの川あり道と大塔  
ら云又一院すけあり天塔のまをまふ  
親王此別院けりありと云ふ  
まをまふと云ふ

### 奇瑞



入彦御朝此時舟中にて悪風吹  
あやうらうらしいはくこもなく  
怪子此像はくこもくひてうむ  
業病くもくもくはれ中してまう  
アアア悪風くもくもくはれ  
浪をけうらして海朝舟船別儀きう  
アアア業西舟まはれ思ひよ  
一ちふふつとして社と造受し怪  
子此像と安玉せり今れまひの  
まはれまかり

### 火災

火災は特現あり三清の  
の上あり或は此特現云  
是四所神の傳云海中火災  
わんごくの時社をさす鳴動  
文世実源中分まき云  
仁あ三春うりたに  
て天下太きに瘡瘡流れて  
此兒童死を帝るげうらあ

### 疱瘡

一めしてまうく瘡瘡  
神よりくま時上神りく  
瘡一我は尾大堰川の名に  
日月讀此神なり我若川りく  
法水れくまありありくま  
松尾北南く極まはれ災害わぶ  
クすこ 帝神此造と大きに  
收口たすひ則今れ西くま  
松の尾の東南月讀の社に  
そは後天下瘡瘡の瘡まかり  
下瘡瘡くまはれ瘡瘡の  
の真人業とくまも也  
傳云 龜山乃院風山の幸北日の  
前とくまひに御車とくまも牛  
けまにありてまうく瘡瘡  
くまあやうむ小始て社わ  
とまらぬ瘡瘡くま上御車  
わらまはれまはれまはれ

### 訛車

傳云 龜山乃院風山の幸北日の  
前とくまひに御車とくまも牛  
けまにありてまうく瘡瘡  
くまあやうむ小始て社わ  
とまらぬ瘡瘡くま上御車  
わらまはれまはれまはれ

と車先乃石と云今石社社あり  
 至珠院乃内あり二院一主上  
 此中車にあらず園白社車あり  
 とは説きもあらず於其素六七代  
 の傳漢中て文又美名と云云  
 引と云と人今癩と煩ふは  
 社より今で社社茶中し石とい  
 ろひかゆとゆふに則病とぬと  
 手後始乃石ふ又ひららるるを  
 て社社又ゆふゆふと云ふは  
 大井川北東南は伏原堤あり伏  
 原の毛清原北麓流なり  
 傳授 遊仙窟此跋云 愛蔵  
 の所中博學子此儒者哉  
 禁中に於て遊仙窟と云ふ書あり  
 ありしは後と傳授ありんか  
 ありしは後と傳授ありんか

士伊時文又此はくこと事と云  
 かけく内は西大奈の東南に  
 本此傳の神社ありその林木の  
 中に鳥とびとひてまの老翁は  
 平常に白眼と閉暗通乃音  
 ありんかとたはひあり遊仙  
 窟たりと伝特中傳ありて三日蒙  
 禱し衣冠とたはひあり其り老  
 翁よりまの遊仙窟と傳授あり  
 事とあるは初乃云とれ初か  
 己ひとと愛とこととらるる今  
 きてうしし事ありと云ふは  
 晴通とるなりなりと云ふは  
 てととつふは伊時と云ふは  
 物處よりうの士の城と云ふは  
 の理ときり手取の哀憐と云ふ  
 かの翁も時晴通と伊時傳と  
 と云ふはたはひに付れと云ふ



又石田の社を号す内かま百  
吉乃三層也傳云 天武天皇(は)  
宇治里より一教乃乃に苗(こ)し  
うねん(こ)しに包(の)えあり  
と有り現く昔て云はし(る)る  
大神并二日名(れ)社(と)鎮(れ)  
る(る)一(れ)は(る)時(に)なく(る)帝(神)南  
方(乃)も(護)神(と)なる(る)今(れ)  
社(を)か(り)る(る)苗(と)は(る)今(に)  
苗(塚)と云

### 龍池

大系(れ)龍池(の)跡(世)人  
あま(の)く(る)あ(か)ら(は)ん(と)  
法(然)上人(の)山(門)の(迹)池(と)は(る)論(を)  
是(と)大(系)同(答)と云(ぬ)よ(し)は(る)  
證(と)か(ら)る(る)依(て)二(号)す(と)  
又一(説)二(心)の(身)子(禪)院  
覺(起)と(禮)佛(院)の(子)子(覺)處  
遍(救)と(佛)果(空)不(空)の(行)論(は)

堂(あり)て(布)内(空)と(論)も(時)ハ  
わ(も)る(る)相(と)は(る)不(空)の(時)ハ  
相(と)は(る)空(不)空(と)不(空)と(不)空(と)  
つ(て)世(に)龍(池)は(る)迹(と)号(す)る

### 現衣

後(迹)大(系)川(の)西(は)論(を)は  
法(文)唯(れ)は(る)翻(教)乃(昌)岡  
妻(か)り(あ)る(る)と(号)道(昌)忽(死)と  
安(身)と(虚)空(乃)布(衣)の(神)に  
現(と)る(る)昌(有)か(と)号(す)る(る)い  
お(世)法(人)は(あ)り(ま)せ(は)佛(の)跡  
と(結)し(め)る(る)則(衣)乃(神)と(裁)て  
こ(れ)と(あ)り(は)論(を)は(る)今(に)と

### 下馬

今(れ)虚(空)乃(布)二(号)す(る)わ  
七(条)大(系)は(社)あり(布)西(伊)の  
社(と)号(す)る(る)武(人)の(に)の  
ア(と)は(る)社(の)前(と)通(わ)る(る)礼(を)は(る)  
時(に)必(ず)崇(と)なる(る)と云(ぬ)は(る)武(人)の  
と(此)時(は)社(の)前(と)下(る)と云



一の...と案に...  
社...とあり

現空

傳之...  
大師...  
密...  
儼...  
乃...  
乃...  
乃...

屈脚

傳之...  
は...  
た...  
一...  
多...  
御...  
は...

風災

東寺...  
相續...  
海上...  
時...  
京...  
は...  
修...  
は...

現身

相...  
密...  
悩...  
あ...









現出

聖子 若穂 一ていつくされ獲  
神とかなる一と  
敬礼寺次又任心院三号  
と西条宗持合まきこひ

中にはなまの萩あにいでて地蔵  
ありせに深あふ地蔵と云信云  
勢多熱灘吹西山西芳ちり殿  
山と造る時は地蔵并現  
物して大石木の動揺より  
とたをけあふとあり持あふ  
その湯杖と西芳ちりに持  
いほりともかくゆわい  
は地蔵并湯杖かきるると云  
ふしわとくま  
大市此作有てまはは教山  
あり 各融院永観二身はまき

樹生

本まみ池池木ふん  
大市此作有てまはは教山  
あり 各融院永観二身はまき

戒等上人此夢に華て云く衆  
生利益のころあふ京洛はま  
と海は樹一身ままをゆくと  
いふと人やじりあふとてえ  
雲海坊の地蔵半に樹一  
ふ又かま多に若てま神  
墨れまに一樹は樹木千世  
を一と不佛ははる縁の地あり  
とやふまふとて人まふ  
と千本の樹木と生守ふれ  
まふまの地をかりけふふ  
一東三條の女流離ま内  
かり又女院の清美ふとて  
あふと印清美かりは  
とて先離まふとて  
まふとてかりは後又今ま  
如堂の樹一まふ

除患

康曆百鹿苑相國美  
滿之云身中いふ余り

先て今相國大さりり色  
いあんあ伽藍と建立し寶  
幢并觀音多尊天と安坐  
され則は患とさるる人  
もろて溪磯川北東  
一と建立し先雄山大福田  
寶幢寺と早し普明と  
して海胆しとけし至徳元  
年十刹才立位と定今寺を  
絶てち中鹿王院跡と

妖怪

狐尾

著實集七の事と云ふ  
香足院忠実と云ふ  
有て狐の尾大樹切人

と傳せしむし二七日に夜忠  
云多に後上人まろくも  
ふも髪美髪にして忠  
実と髪の色とわし  
しなうの事と云ふ  
侍友とあふ人に狐の尾を  
あふ事怪の事ありそと  
承したはひのみと云ふ  
而れ成れと云ふ  
いふて狐を相かか  
しと云ふ尾を乃内  
乃護衛ありと云ふ  
冷泉通東北院  
て福入め神と早し  
東白駒 南禅寺の地文  
又ゆつり安在中  
又修造ありて

あいにあふと多しと云勝院使  
正道智をてつは地極と云  
は地を却て成る由ありて  
山上遊乃むらに地はひら  
ふ今にふ赤の海と号す又  
約は佛云と云是しわ登壇家  
懐柔教と号す 太上白と云  
佛陀羅尼と云一ありて  
一して戸傳をひりて人安  
ふらうかゝるゑと云南都中  
別處に法味あるひん兜術  
よと云まて百計と云  
ぬ時一東福普門大の國師と  
と云下二千此傳信と云  
ふ中一安をいふ事九有  
るに別り法と云四時在  
力にわらわ怪と云と云  
安寂と云教感れのみと云

と云くちご一六佛と云創して  
金剛王寶女と云

佛像宗

吉祥山安祥寺八山科  
仁明天皇代五條次子

此建ふ亦なり法法真雅と云兩山  
ありて七と云上面觀音御  
八尺あり傳云世昌續後字  
此滿るゝめ慈覺大師に  
ひ傳とかり慈覺と云早  
乃後世と云太夫と云は  
二妖怪ありと云有に  
是海東と云るの佛像宗  
と云は家と云ふと云  
け時安祥と云は法と云混雜  
と云浦と云わけてと云と云  
と云佛堂と云て杖と云りて  
不かりと云は不と云は杖の  
と云す不と云は杖の



板屋とこまは女怪やとね

老翁現

むしひらり此教聖あり

者此宗風とてこひて湯柱の石

しはわふも氏姓といふもさう

おちるもとまらば後老翁のひ

童男の女のこころと現トて

時よの人のあまをみるはひは社

とまこみかたの神の事と云

飛火

相違の森いへいへんあ

時節おとて教点の火南ふよ

つと死のしは森よとてりてさひ

アとて雨夜時よとてりてさひ

こしとて火のしは傳ふか山門

よ徳傳ありとて傳ふとてりてさ

此教童小をよとてりてさ

死とてりてさ

此七魂火しやわしては表におそ

相違時の火も又とてりてさ

火く云ふ火も又とてりてさ

ハ現の現とてりてさ

よありとてりてさ

ものやわとてりてさ

移堂

藁舎の茶師とてりてさ

藁舎の茶師とてりてさ

實茂大明神の依り茶師の

像とてりてさ

古來は本とてりてさ

は寺の推古天皇の建立とてりて

之とてりてさ

運勝る此邊にありとてりてさ

とたつとてりてさ

よとてりてさ

は地ハ三井寺の傳説とてりて

領とてりてさ



号するは仙翁のりんのもの合  
まはけち地乃花は花出生ま  
とせと世に仙翁花と号する

### 安西標

お軍政の事  
二因春の一時

安西世継山の中山等の人  
業と事し各々津を討ちあり  
あられし今にりて課役これ  
一安西氏れかよ大さかり  
の本ありこれ則に祖安西氏の  
ち表流標を標し然くわらひ  
全ふあり安西標と云

### 道心解毒

は解毒の薬あり

往昔永平寺の先師高実國

もひきりあふるふるをわらふ  
びて供養したまふ道心  
一老翁出現し世傳の  
迎障の者かり余と考へ  
あひしに若くはわらふ老翁  
又いそぐ交はむ相あり  
と又の正名よ若くは  
はあふひしむの備よ  
家よあふし心うやうは  
とわらふ人自かにゆり  
とまらう下と則に業方  
翁たちまらふと  
と依り道心相續しけ  
と合法圓ふひら  
乃え和尙住持の

深きよりありぬ神に遊歴れ若  
と生るふしはゆかたなり

別当職

聖護院三井寺に在り  
應永にて進せぬる御代

ゆくりの常任院と号す香護  
院に桶号は三井の古事傳譽

傳正と号しゆりしゆりしゆりし  
大船ニ言傳傳歸の息ありて二山

別當職の始なりゆり山伏等ゆり  
家より屬すと

玄師號

涼橋邊花院才三世等  
熱上人俗稱方聖れ小

ゆり家よりしゆりしゆりしゆりし  
初院に住り後方天よりゆり

ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり  
小松院稱光院三帝のゆりゆり

ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり  
ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

始末家松の始ありて四脚れ門

傳正継衣

傳云傳正継衣の時石  
清水八幡宮に社傳正

おれ祖社目成法と云者ありよ  
アとてこの縁遇とゆり門跡の

ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり  
後法家院に傳正懐胎の美女

ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり  
ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり  
ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり  
ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり  
ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

光字

目録宗傳はとて八幡社  
親大傳首普光院に在り

教云云怒りて一旦獄舎  
 へてむは河を河泳のえ祖信  
 といふ者又刃鋸れあやまりに  
 つて普度相公の命にえむき  
 用一く獄舎はあわ法信自執  
 上人よりく獄舎一たぐひの獄と  
 出て後法信相公をせり日親  
 とてあたら本光と改名せり  
 本光のあま今に中河津かた  
 ぬとにえれ字とて玉事本光と  
**茶亭** 东山慈眼寺の軍義  
 改云園庭の地かた方夫  
 の東山書院あり同仁と号  
 とては茶亭と号せり世に  
 此四尊と号しとて遊鶴と  
**念字** 法源中院の内三角の  
 方より念とて念茶とてたぐひ

世の凶荒よりかえりては不列  
 西の方れ念地之始吉田とて  
 父平陸丹波の保信より多り  
 不より信とて息る意を念の  
 南茶とて市と号し一角茶と  
 て一とてとて人板念信とて勝  
 ま京兆れ下司とて河津とて  
 て云角茶と号し一か以則板  
 念の念の字とて人向後ハ  
 念とて柿とて一とて命に  
 かとて今にそと種類茶茶  
 涙戦とおわて人念方と号し  
 氏とて信とて信とて姓りり  
**水井** 烏丸通正親所の水あり  
 施茶院のまうとて  
 内より大さかり井あり中に板と  
 てをてて水とて水に用又





乾菜

乾菜 乾菜寺今出川の東南  
村あり者恩院の事

舟波の國の人をりるてを  
秀吉言ふるの塔よあり  
時いさくに遊獵あり一月ける  
よありたまふ何村宗真え  
私倉作して放とへすの  
千菜一把と放とへす  
よ秀吉言ふ買ふと感  
たもいて寺領となす  
世よはちとりあちと号  
ある寺ハ六丈大較れなる  
東本堂 浄土寺村慈願寺  
持佛と安坐とる此下あり  
近湯相國本久公此領  
へけしあり此慈願寺に

東本堂

任職あり信之三并久ふ  
任あり東本堂龍山と号す  
け後なりし三藏院信平  
時ゆありて領地と松和の  
ありなり

権現堂

七条の南朱雀にあり  
文徳天皇此神宮和州之  
る亦力勝軍地義の像とい  
よ像して二堂に安坐  
ありしに世に権現堂と云  
御門 本朝 寛平法皇御位  
とゆりありて後仁徳に  
巴多ふ是にありて神宮の  
一又神宮と云仁和寺乃  
御門の早ありて  
門主の早ありて



門の例は准とるのなりは  
ふ時ハ准門にうて実とる  
らうもの

東山雲山正法寺住持  
我杖履 國の久くはるる大

神とて多宗の時もふであひ  
ははかりの歌がうたふと  
けれよふまゝの人前はかきす  
まはしうてと人共様とあ  
并よと人伴あひあひ携た  
まふふの杖杖履と頂戴と  
そひのぬの歌をうたふと  
水素塵 法性といふや  
川大洪水とつづの深明のり  
水たらしまり減と依てけふ  
よちと建立しは城とて守  
とてとハ水去てと成れ文字

かり法的死後けふと覺る道  
世まで五茶川系よはの  
ア〜見たりけふとて見真  
云宗なりの中世法宗とある  
汗施と安重し心光とてあり  
じも後洪水なはけりも守  
とてと事なりとるを正と住  
誠高林和尚とて三茶林松林  
よ極さわ合あるとれらるめ  
よは法性といふ文字あり

伏見墨原寺の内がわ  
不雲(深林) 傳といふと云  
よのあす 仁の天合とて雨  
時遍昭徳とてそのゆゑの  
ゆゑの橋し心ありはこころ  
つわいといふと見にいけの  
あつて深きあはらとて  
会りのたりのかりしと一本と

わすけいありはるし後に  
まことと雲深こまける偶  
よりのけいありま深ちと号す  
ふふめなり

西園寺

けし鷹大徳寺此所  
あり始八常住心院と  
号す則公徳公創建なり  
増後云西里まらるる  
ありと公徳公家富る人いふ  
一西園寺ありと大山麻苑  
院ありて別荘の地あり  
うらに麻苑相園交ぬる地  
とあり一あり退還の地と  
公徳公の屋敷の園松林の  
とあり地ありけし西里ま  
原に建てたり今京極寺  
ありあり浄土宗ありて  
恩徳の志あり

空也念目

京都と東園寺ありひきた  
まありと念目とていひ今  
一月十と園あり又空也にあり  
不れ一宗のち院あり空也にて  
遷化れ日九月十日と月也西  
の山ありと又土日と園  
一説と空也と人いひ空也  
ありありと西里まらるる  
とて念目とて空也乃塔家  
ありと念目とて西里まらるる  
院の先住僧是再無と  
新脚筋 樟木村の南あり山  
のゆり道と傳ふ和氣は院  
弓削の道鏡が怒りて脚  
の筋とたりはるし退放せし

えんじつ字統八幡の神が宿いよ  
りてあ脚たらしまらうのむきに  
らつてけふはまきまきと建立を  
と八幡人々遷幸の回けりも又  
け中へ建こも今ちの絶てぬ  
石像両尊 山城桐葉社  
のあまもと歌刻りわき能事と云  
どと今をいんんれ力示にあ  
す古一六加算りわては石像も  
堂内に安置せりて二釈を待せ  
碑破石集しかきまきれ勸地  
為さしきとありしは法人の  
信心しあまき靈験も城とこも今  
は風雨おさし能くしるるるぬ

事跡

大尊金池 二条三三又示れり  
川の森にまかす頂あり

つもかりわつて大尊金池に  
して候し候よと候し大尊  
ありし今は大尊金池の池と云  
古池云 順徳院建曆二の始て  
終り大尊金池云又永和二の  
の軍災海公治世より有る

大退地池 下也又長川合社  
四月の軍災政云の時は不りて大退  
地ありし後 後花園院寛正  
六の八月真似又 故陽成院永  
録云の三月三日真似東西平  
二石南小四十間也又 後光厳院  
正保四の土月廿三日は山王地  
ありて 藤之生も光久合軍  
家御 歸石等つた軍家出陣

大退地池 下也又長川合社  
四月の軍災政云の時は不りて大退  
地ありし後 後花園院寛正  
六の八月真似又 故陽成院永  
録云の三月三日真似東西平  
二石南小四十間也又 後光厳院  
正保四の土月廿三日は山王地  
ありて 藤之生も光久合軍  
家御 歸石等つた軍家出陣

津假屋法大各河候より上六  
後城川内自通えり三月南邊  
おろし料理の太道物御膳入く

大茶湯池

沖津より時天守

今十月海下系とあひ敷家入  
今しと其財とあまも小津  
堂乃東に各々茶亭とあり  
且風流とあそびし秀吉古河  
才成あり仰心よりかゝる  
内時ハ則茶亭と備へんと  
かしあそびと小津大茶湯  
と云はし時細川三景教向乃松乃  
西よ茶亭と備へ茶亭と  
早うと松よびつあそび  
はらうの桶号と云

扇流跡

高貴は流跡と云

銀のありきと云川又多し無と備  
し傳も下りわ

神祇館

いり年安藤と云

乃地より下りわ中世士曰神茶亭  
袖より今此女場と云

通安茶店

茶店と云

川乃側よりいりは茶店と云  
袖より踏縁と云と世又と云  
茶店と云と茶と云は茶の  
人れ便と云せし茶店の中に  
いりとの通安の儀と云はし  
世通茶店と云早中茶亭  
と云茶店と云同の儀と云

辻之坊次

連の味宗と云

くとき、宇治の遊潭、白川、金魚池  
の内、この房より宿りて、是より  
舎とほくむとて、今この坊に  
建れ、こゝにありて、

**乾徳池** 東山寺邊にあり、西よりあり  
傳云、西七寺あり、けし、法源

光親、歸のころ、より、痛、生、ま、り、く  
け、不、れ、獄、を、ま、り、く、依、り、て、終、る、云

**乾徳園池** 二條の南、大寺の西、河神  
泉苑の地、を、た、り、て

そのころ、ま、り、と、遊、び、ん、の、地、に、て、後  
大、所、は、地、を、て、取、り、の、も、是、也  
人、を、ま、り、し、て、あ、り、と、あ、り、と

**極電池** 大原源融、云、た、な、む、り、と  
今、ま、り、と、て、極、別、地、に、あ、り、と、あ、り、と

と、し、こ、り、と、色、を、と、度、し、む、る、あ、り、と  
是、手、に、先、に、た、り、ぬ、の、系、と、り、て

此、真、と、か、り、と、わ、り、と

**燭壇** 船屋山の西、小あわ、り、と、あ、り、と  
法、法、大、師、蓮、堂、と、り、と、あ、り、と

一時、い、り、て、あ、り、と、あ、り、と、あ、り、と  
と、護、り、と、修、り、と、あ、り、と、あ、り、と  
法、法、大、師、殿、刻、り、と、あ、り、と、あ、り、と  
乃、像、今、と、あ、り、と

**勸學院** 傳、云、り、と、あ、り、と、あ、り、と  
又、北、西、に、あ、り、と、あ、り、と、あ、り、と

西、に、あ、り、と、あ、り、と、あ、り、と、あ、り、と  
あ、り、と、あ、り、と、あ、り、と、あ、り、と、あ、り、と  
依、り、と、あ、り、と、あ、り、と、あ、り、と、あ、り、と  
今、津、去、西、山、流、を、り、と、あ、り、と、あ、り、と

**山階寺** 傳、云、り、と、あ、り、と、あ、り、と  
傳、云、り、と、あ、り、と、あ、り、と、あ、り、と

号、に、後、南、都、と、あ、り、と、あ、り、と、あ、り、と  
福、吉、と、あ、り、と、あ、り、と、あ、り、と、あ、り、と  
又、田、跡、わ、り、と、あ、り、と、あ、り、と、あ、り、と

山科東野村より中

本教の流

古河宗玄の流

あつて山門の流よりあつて  
侵す事遂にいと御那に改三海  
長の後よ板と入れちては流さ

也右流

あつて山科現娘の流

あつて山科現娘の流よりあつて  
也右流現とともあつて  
よのこまわらば後  
よらん  
アは地尊野部をり  
神号

京師三重織



